

# 国関で見つける多文化共生の可能性

国際関係学部1期生(3回生)の学び

## 国際関係学部を選んだきっかけ

私が高校生の時にクラスにアメリカから留学生が来ました。初めの頃は、先生や生徒は彼を温かく受け入れていました。しかし、時間が経つにつれて日本語があまりできない彼をまるで腫れ物のように扱うようになりました。このような現実を知り、なぜ日本で多文化が受け入れられない風潮があるかについて知りたいと思い、国際関係学部を選択しました。

## 大学生活について

私はESS（英語研究会）に所属しています。活動は主に清水寺や銀閣寺で外国人観光客に向けて、ガイドしています。多様な価値観やアイデンティティを持つ人とコミュニケーションを取ることができるので、とても楽しいです。京都産業大学は学部の授業以外にも、国際交流を行う機会がたくさんあるので選んでよかったなと思っています。



## 海外Field Research

研修先：ベトナム

ベトナム人のバディの口癖は“Keep talking”でした。私たちが緊張して英語で何も話せなくなっている時にバディはいつもそう言ってくれました。英語が母国語ではないベトナムだからこそ私たちのことを理解し、暖かい心で受け入れてくれました。現在、ベトナムは経済成長真っ只中で、街中が活気に溢れています。みなさんもそんなベトナムでぜひ素晴らしい経験をして下さい！



## ゼミの研究テーマ

「国際関係における文化の対立と共存」  
(正躰ゼミ)

グローバルな民族紛争や、移民・難民問題、多文化主義などに加えて、環境、人権、貧困などグローバルな課題の背景にある「価値の対立」を考えます。様々な価値が衝突する社会でその「対立点」を多角的に分析し、「協調・共存」への可能性を探っています。